

平成30年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月12日実施)	総合評価(3月29日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	<p>①現行の教育課程の改善を図り、新教育課程編成を進める。</p> <p>②本校のミッションと生徒・保護者のニーズを基に、魅力と特色ある学校づくりの推進を図る。</p> <p>③組織的な授業研究を進め、主体的学習習慣を育成する。</p>	<p>①新学習指導要領に対応した、新たな教育課程の編成を進める。</p> <p>②「チャレンジする生徒の育成」企画に引き続き取り組み、授業や各種行事を通して生徒の主体性を育む。</p>	<p>①新学習指導要領に関する情報を収集し、新たな教育課程の編成を進める。</p> <p>②「チャレンジする生徒の育成」企画に引き続き取り組む。英検・GTEC・漢検などの資格・検定試験の活用を促進させる。授業研究スペシャルウィーク等を活用して、組織的な授業研究を充実させる。</p> <p>文化祭、体育祭その他の行事において生徒会本部および委員会、参加団体等の自主的運営能力の向上を図る。</p>	<p>①新学習指導要領に対応した教育課程の編成が進められたか。</p> <p>②実施した企画に係る検証を行ったか。資格・検定試験の受験者が増加したか。</p> <p>③主体的・対話的で深い学びについて、各教科で組織的に検証を行うことができたか。行事を通し生徒アンケートから生徒自身の満足度が80%以上となったか。</p>	<p>①教育課程説明会などを通じて、新学習指導要領に関する情報を収集できた。2020年度から始まるインクルーシブ教育に対応した教育課程を編成することができた。</p> <p>②資格・検定試験の受験者を増加させるため、技能審査の成果を単位認定する規程を作成した。</p> <p>③授業研究スペシャルウィークによる授業見学や教科会等を通じて、授業改善に組織的に取り組むことができた。チューリップまつりの来場者アンケートでは、満足度が88%、体育祭では85%という結果になった。</p>	<p>①今年度教育課程編成業務は、インクルーシブ教育に対応したものに絞って行った。来年度は、新学習指導要領に対応した教育課程の編成を進めていく。</p> <p>②技能審査の成果を単位認定できるようになったことを、保護者・生徒に周知することにより、資格・検定試験の受験者を増加させていく。</p> <p>③授業をいつでも見学できるというシステムを作り、授業研究に継続的に取り組む雰囲気をつくり、リフレクションカード等を利用して、生徒が授業の振り返りを行う授業を全体に習慣化させる。</p>	<p>①インクルーシブ教育の教育課程についてはパイロット校の取組の状況を踏まえて検討する必要がある。アクティブラーニングについては対話をどのようにとらえるかが重要である。</p> <p>②技能審査の単位化については、適切な単位数としてほしい。あくまでも授業に出席して単位は取得するものと指導してほしい。</p> <p>③大学でも授業評価アンケートをやっている。効果的な取組だと思うがルーティン化しないような工夫をしてほしい。また、体育祭は大変素晴らしい取組なので、保護者のみならず近隣住民にも公開してほしい。</p>	<p>①新学習指導要領に向けた対応については、「総合的な探究の時間」について大枠が出来上がった。しかし、細部については、今後十分な検討が必要である。また、他の教科のカリキュラムについては、未検討の状況である。</p> <p>②技能審査を単位化したことは「チャレンジする生徒の育成」といった本校の目標に照らして資格・検定試験を促す意味では効果的であったが、GTECやTOEFLなどの単位化に課題が残った。</p> <p>③生徒による授業評価から授業に対する満足度が年々向上していることが検証された。これは授業研究の積み重ねが奏功していると評価できる。インクルーシブ教育への授業研究が課題である。</p>	<p>①新学習指導要領の検討を進め、学校教育目標を踏まえた検討を次年度早々に始める必要がある。また、インクルーシブ教育に係る学校設定科目の検討も2～3年次を見据えて、より詳細に実施する。</p> <p>②技能審査の単位化について生徒、保護者に周知するとともに、資格検定試験の受験を一層促していくとともに、より適切な検定について検討する。</p> <p>③引き続き、組織的な授業研究に取り組んでいく。とりわけ、インクルーシブ教育に関連してユニバーサルデザインなどの研究が必要である。</p>
2 生徒指導・支援	<p>①生徒の自主的運営能力を向上させ、生徒主体の自立的活動を促し、自ら課題解決にチャレンジしていく積極的な態度の育成を図る。</p> <p>②基本的な生活習慣を確立し、自己管理能力、自律的行動規範の獲得を促し、モラルの向上やルール遵守の精神を養う。</p> <p>③丁寧できめ細かな生徒支援体制を構築する。</p>	<p>①部活動の活性化を図り、生徒の自主的な活動を支援し、生徒の自立的活動力を育成する。</p> <p>②学年を中心に組織的に生徒指導を行い、基本的生活習慣について粘り強い丁寧な指導を継続的に行うとともに、生徒一人ひとりに対応した支援を推進する。</p>	<p>①部活動加入率向上のために校内に各部活動情報を掲示する。ボランティア活動を紹介し奨励する。</p> <p>②遅刻、服装・頭髪の指導の充実・徹底を図る。バスや自転車乗車について公共心を育成する指導を引き続き行い、マナーの向上を図る。</p> <p>よりきめの細かい個別面談やSCとの面談、ケース会議等、生徒一人ひとりに対応した支援体制を充実させ、教育相談体制づくりを進める。</p>	<p>①部活動加入率を70%以上に増やすことができたか。ボランティアへの参加者が昨年より増加したか。</p> <p>②遅刻、頭髪服装の指導を行い改善が図れたか。公共心が育ち、乗車マナーや自転車通学のマナーの向上が見られたか。</p> <p>面談、SCの活用、ケース会議など効果的な支援を実施できたか。</p>	<p>①部活動加入率は、59%とここ数年で最低に低迷した。ボランティア参加者は合計29名と増加し、3ヶ年で最高の時間数活動を行った。</p> <p>②遅刻防止指導やバス乗車マナー等についての指導を強化し、生徒の規範意識やマナーの向上につながった。</p> <p>教育相談センターを立ち上げ、課題を抱える生徒に対して、きめ細かい支援を実施できた。</p>	<p>①新入生向けの部活動紹介の後に一斉体験入部を行い、一度部活動を全員が体験する場を作り、加入率向上を目指す。ボランティアは今年度同様に申し込みを本校で行えるように緑区社協に協力を求める。</p> <p>②引き続き遅刻・頭髪・服装についての指導をきめ細かく実施する。課題を抱える生徒の支援に向け、外部専門職と連携しながら取組をさらに発展させていく。</p>	<p>①部活動の加入率が低くとも、活動が充実していれば良いと思う。部活動支援員を取り入れる話もあるが、教師が教えるからことに部活動の意義がある。加入率にこだわらず教員が教える良さを生かし、生徒の豊かな社会性を育ててほしい。</p> <p>ボランティア活動は、必ずしも自発的でなくとも、生徒に社会に役立つことを体験させる機会を提供することは重要である。人の役に立つ経験を積み重ねてほしい。</p>	<p>①部活動の加入率の低下は、学年が上がるときにやめてしまう生徒が少なからずいることが影響している。さらなる向上を図りたい。ボランティアについては漸増の傾向にあるが、地域連携の重要性を考えると十分な参加とは言えない。</p> <p>②遅刻指導については、一定数の遅刻に達したものに定期的に指導を繰り返していることが効果をもたらしている。教育相談センターの新設により支援が必要な生徒の情報の収集と共有が図れたことは前進である。</p>	<p>①部活動の加入率を上げるために、一斉入部に取り組むほか、学年が変わるときに退部が増えることについて原因を探り対応策を練ることが求められる。ボランティアについてはより積極的に開拓し、また周知することで参加者を増やしていく。</p> <p>②引き続き、遅刻指導を重視するとともに欠席がちな生徒へのアプローチを積極的に行う必要がある。</p>



3	進路指導・支援	<p>①自己発見の機会を与え、自己の将来にも向き合いながら自己実現を目指すキャリア教育の充実を図る。</p> <p>②進路希望の実現に向けて進路選択能力の涵養と学力向上を図る指導を充実させる。</p>	<p>①新学習指導要領の趣旨を踏まえ、総合的な学習の時間の内容について、探求的かつ学年間の連携を促すプログラムを検討する。</p> <p>②生徒が自己のキャリアを考え、自ら将来計画を描く力を育成する。</p>	<p>①情報を収集し、新学習指導要領下での総合的な学習(探求)の時間のあり方について検討を進める。</p> <p>学年のプログラムを相互に共有し、学年間の系統性を意識できる年間指導計画を策定する。</p> <p>②様々な媒体を用いた情報収集、資料活用機会を提供する。</p> <p>模擬試験や資格・検定試験、インターンシップ等をPRし取組を奨励する</p>	<p>①新学習指導要領に基づく検討が進められたか。</p> <p>学年間の系統性を意識できる指導計画を策定することができたか。</p> <p>②生徒に様々な活動の機会を提供できたか。</p> <p>模試や検定試験への取組の状況は向上したか。</p>	<p>①「総合的な探究の時間」について新学習指導要領に基づき、検討が進められた。</p> <p>②模擬試験の参加数は前年度に比較して減少した。</p> <p>インターンシップの参加数は、前年度33名から14名と半数以下になった。3年生の参加が例年より大幅に減ったが、下級生の参加は増えた。</p>	<p>①「探究」のあり方について、全職員での取組を周知することを進めていく。</p> <p>②外部模試への参加を促していく。インターンシップは少数になったが、事前指導により昨年より意識の高い生徒が参加し、取組内容はよくなった。質・量ともに向上するようアナウンスと事前指導を行う。</p>	<p>①「総合的な探究の時間」に霧が丘高校らしさが見えてこない特徴を生かした授業づくりをしてほしい。</p> <p>②横浜北地区というグループで取り組むインターンシップは効果的であるのでぜひたくさん参加を促してほしい。</p>	<p>①「総合的な探究の時間」について年間指導計画を作成した。しかし、活動の具体については示されていない。</p> <p>今後の検討が必要。</p> <p>②模擬試験への参加やインターンシップの参加者数については不十分であることが示された。</p> <p>キャリアの意識づけが適切になされたか課題が残る。</p>	<p>①キャリアグループを中心に、1学年のみならず、全校的に「総合的な探究の時間」に取り組み、その成果と課題を蓄積する。他校での実践も参考にする。</p> <p>②総合的な学習(探究)の時間等により、職業に興味関心を高め、1、2年次からインターンシップへの参加を促していく。模擬試験も受けるだけでなく事後指導も必要である。</p>
4	地域等との協働	<p>①地域社会の理解を得るため、本校の教育活動に係る積極的な情報発信を行う。</p> <p>②地域貢献・連携・協働を通し社会参画意識の向上を図る。</p>	<p>①本校の教育活動の取組みを効果的に伝える広報活動を実施する。</p> <p>②地域との連携を図り生徒の社会参画の機会を作る。</p>	<p>①学校案内の見直し、改良、週1回定期的にHPの更新を行う。</p> <p>校外、学校説明会の内容の精選、視覚的に分かりやすいパネルを更新する。</p> <p>引き続き中学生を対象にした高校体験行事を実施する。</p> <p>②霧コンシェルジュを集い、中学校への訪問や、学校説明会の運営をサポートする。</p> <p>地域と連携した行事の企画運営を行う。生徒会本部の他校交流・小学校での防犯教室・地域イベントへの部活動の参加・文化祭時の地域交流ブースなど地域との協働の機会を増やす。</p>	<p>①学校案内の改良、HPの正確かつ迅速な更新ができたか。</p> <p>校外、学校説明会において中学生、保護者に適切な情報提供を行えたか。中学生対象の体験行事を実施したか。</p> <p>②募集方法は適切であったか。中学生、また保護者に対し、満足を得られるアナウンス、全体運営を行えたか。</p> <p>地域との連携事業を実施したか。</p> <p>生徒が地域貢献、社会参画を意識できる体験ができたか。</p>	<p>①学校の広報活動として、特に部活動の成績のHPへの掲載、相模原地区中学20校への学校訪問、部活動体験の充実等を行い、特に部活動体験では93人の参加を得た。</p> <p>②霧コンシェルジュの育成に努めた。</p> <p>星槎学園、若葉台小防犯教室、緑区防犯劇、若葉台や老人施設でのイベントに部活動が積極的に参加した。知事との対話などのイベントに参加した。</p> <p>来年度のチューリップまつりを地域連携行事にするために実行委員会を立ち上げ、模擬店、ステージ発表などの参加を積極的に進めた。</p>	<p>①HPのフォーマットの変更に伴い全職員への研修を行う。</p> <p>修学旅行先、制服の変更に伴い、中学生向けのパネル・案内を作成する。</p> <p>中学生向けの部活動体験だけでなく授業体験の実施も検討する。</p> <p>②新入生に霧コンシェルジュへの勧誘を積極的に行う等、イベント等での生徒の活動の場を増やしていく。</p> <p>来年度のチューリップまつりを学校行事から地域連携行事に移行し、地域から模擬店やステージ団体の参加協力を得るとともに、地域に広くPRする予定。</p>	<p>①生徒が学校の広報活動に関わることは大変重要である。生徒が広報の中心になることにより、学校を良くしようという意識が生まれ育つ。</p> <p>霧が丘高校の認知度を上げるために、小学生を招いての取組を実施してはどうか。</p> <p>②地域との交流では、毎年吹奏楽部やダンス部等の部活動のイベントへの参加協力を感謝している。</p> <p>今後、教員志望の大学生に、勉強の場として、学校を積極的に提供していく取組の実施も後進を育てるという観点から考える必要がある。</p>	<p>①HPの更新などが中学生へのアピールとして効果的であることが示された。</p> <p>相模原市、学校への訪問が霧が丘高校を選択肢の一つと認識されることにつながった。</p> <p>②霧コンシェルジュによる学校案内が好評であったことから、生徒が中心になって広報活動を行うことの意味になった。</p> <p>来年度のイベントへの参加協力を感謝している。</p> <p>今後、教員志望の大学生に、勉強の場として、学校を積極的に提供していく取組の実施も後進を育てるという観点から考える必要がある。</p>	<p>①新入生やその保護者へのアンケートを通じ、霧が丘高校を選んだ理由などを分析し、より効果的なPR方法を探る。</p> <p>特に海外修学旅行や制服変更等新たな取組への情報提供を積極的に行っていく。</p> <p>引き続き相模原方面への中学校訪問を実施する。</p> <p>小学生を招いての取組や体験授業の実施等、新たなPRの場を創設する。</p> <p>②霧コンシェルジュの取組をより一層充実させ、様々な場面で生徒が活躍する機会を作っていく。</p> <p>チューリップまつりを活性化し、地域との連携を強化していく。</p>
5	学校管理 学校運営	<p>①事故・不祥事防止に努め、安全安心な信頼される学校づくりを進める。</p> <p>②防災教育・防災訓練を通じて、教職員や生徒の防災意識を高めながら、学校全体で組織的・計画的に災害対策対応力の強化を図る。</p> <p>③校内美化、環境整備を進める。</p>	<p>①職員が一丸となり、事故・不祥事防止に取り組み、信頼される学校づくりへの意識を高める。</p> <p>②防災教育・防災訓練を通じて、教職員や生徒の「自助共助公助」の防災意識を高める。地域と連携して組織的・計画的に災害対策対応力の強化を図る。</p>	<p>①各グループがテーマに沿って、課題解決に向けた効果的な事故防止会議を運営する。特に、ヒヤリハット事例等具体的な内容となるよう工夫する。</p> <p>②防災マニュアルの周知徹底を図る職員研修を実施する。「避難所初動対応マニュアル」を作成する。</p> <p>生徒対象のD I G研修・喫食訓練を実施し、防災・安全意識を高める。</p> <p>地域の災害対策本部と連絡協議を行う。</p>	<p>①年間を通して、具体的で効果的な事故防止会議が実施できたか。</p> <p>②職員の防災意識を高める職員研修を実施できたか。</p> <p>「避難所初動対応マニュアル」を作成したか。</p> <p>生徒対象のD I G研修・喫食訓練を実施したか。</p> <p>地域の災害対策本部と連絡協議を行ったか。</p>	<p>①全10回にわたる事故防止会議を開催した。</p> <p>不祥事は0件だった。</p> <p>②防災マニュアルを改定し、「避難所初動対応マニュアル」を作成した。</p> <p>全校生徒対象に簡易D I G研修を実施し、徒歩帰宅経路の危険な場所・避難場所等の知識を深めた。</p> <p>防災訓練、災害時帰宅経路の作成・防災講話の防災教育を行った。</p> <p>地域との連絡協議はできなかった。</p>	<p>①来年度はインクルーシブ教育の推進に伴う人権研修を実践していく。</p> <p>②全校生徒対象の簡易D I G研修・喫食訓練などの防災教育を継続する。</p> <p>防災訓練を繰り返すことにより、防災意識を高め、自主的な活動を育む。</p> <p>地域の災害対策本部と連絡協議を行い、共助の意識を高めていく。</p>	<p>②引き続き災害訓練に積極的に取り組んでほしい。</p> <p>学校は地域の避難拠点にならざるを得ない。</p> <p>被災後72時間をどう過ごすかが大きいテーマである。</p> <p>どんなルール作りをしながら、生徒にはどんな役割が可能かを考えてほしい。</p> <p>校内美化では、トイレの壁塗りを生徒・保護者で行ったのは有益であった。</p>	<p>①定期的な事故防止会議が不祥事防止への意識付けにつながり、その結果不祥事ゼロをもたらしたことは大きな成果である。</p> <p>②防災マニュアルをより実用的に改訂したことで、全校生徒によるD I G研修など定着してきた意味は大きい。</p> <p>地域の災害対策本部との協議など地域との防災における連携にまでは至らなかったことが課題として残った。</p>	<p>①定期的な事故防止会議を実施し、不祥事例やミスが起りやすい事案を上げながら、粘り強く職員の意識を啓発することにより、職員の主体性とガバナンス力を高めていく。</p> <p>②D I G研修を継続するとともに、ルーティン化しないよう地域と連携しながら新たな訓練を実施する。</p> <p>P T Aと連携した校内環境整備を継続して行う。</p>

